

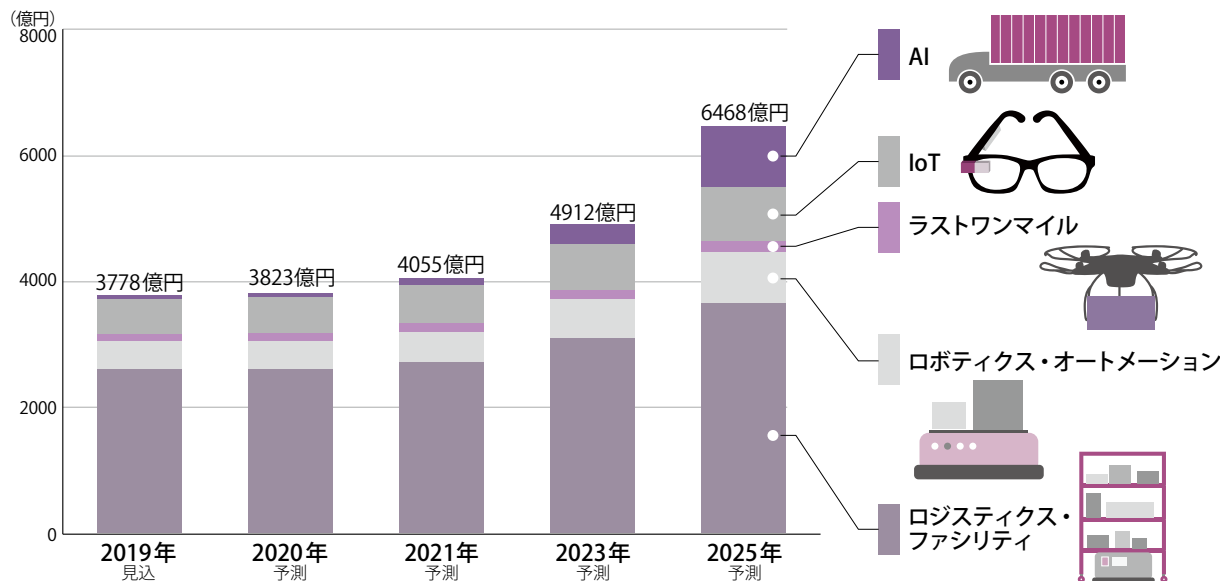
## #12 LogisticsTech (物流とテクノロジー)

# 物流業界の人手不足対策とユーザーニーズの多様化で急拡大 ロボティクス、IoT、AIを活用した物流テック最前線

取材協力

竹内文哉氏 株式会社富士経済 インダストリアルソリューション事業部 第一部 第一課 主任

### 次世代物流システム市場



出典:株式会社富士経済『次世代物流ビジネス・システムの実態と将来展望 2020』

アナログだった物流業界のデジタル変革が進んでいる。ここ数年でネット通販を利用する消費者が増えた。コロナ禍で消費者の購買・行動様式が変化し、小口・多頻度といった配送需要が多様化した。さらに即日配送や配送料のサービス競争が加速、現場作業はひっ迫し、人手不足は深刻な問題となった。そこで、これまで属人的に行われていた物流業務を機械化・自動化すべく、舵を取り始めたのだ。

富士経済の調査によると、2020年の次世代物流システム市場は3823億円が見込まれており、2025年には6468億円(2019年比71%増)が予測される。

「市場拡大の要因は、ロボティクスによる省人化・自動化。AGV(無人搬送車)による自動搬送をはじめ、作業員の手元までピッキングする商品を持ってきてくれるGTP(Goods To Person)タイプの倉庫ロボットシステム(棚搬送AGV)、人と協働しながら作業支援を行う自律型のロボットAMR(協働型ピッキング支援ロボット)等の導入が拡大しています」(竹内氏)

立体自動倉庫システムや自動搬送・仕分けシステム等のロジスティクス・ファシリティ、AGV・アーム付AGVやリニ

ア搬送システム等のロボティクス・オートメーションは海外企業が市場をけん引してきたが、日本でも大手製造業やスタートアップ、ベンチャー企業が参入し、国内需要や海外販売を拡大しつつある。

新たな潮流として、ドライバー不足を解決する物流向けドローンや無人宅配・配送ロボット、自動運転トラック、AIを活用したトラックのシェアリングシステム、配送ルートを最適化するシステム、再配達回避システム等、ここでは挙げきれないが現場作業を自動化・省力化するテクノロジーだけでなく、新たなサービスの成長が期待されている。

「配送ニーズの多様化によって、物流業界は大きく進化しています。競合・協業他社に加え、自治体、大学等と連携して新たなサービスを生み出すことも増えていくでしょう」(竹内氏)

物流は製造・流通・小売業等、あらゆる事業やサービスに関わり、社会インフラを支えるやりがいもある。社会の変化に柔軟に対応し、幅広い視点と分析する力が今後はより求められていこう。(文/馬場美由紀)